

京都創造者大賞 2017

～創造と交流が生み出す未来～

世界に誇る緑茶ブランド「宇治茶」の振興発展に取り組む 宇治茶の郷づくり協議会 を大賞に決定

京都府、京都市、本所等で組織する京都創造者大賞顕彰委員会(委員長:本所会頭 立石 義雄)では、京都ブランドのイメージアップや京都の都市格向上に著しく貢献している、又は、今後貢献が大いに期待できる取り組みの担い手を「京都創造者」として、オール京都で表彰しています。この度、11回目となる「京都創造者大賞2017」の受賞者を決定し、9月15日に京都府立京都学・歴史館において授賞式を開催しました。

京都創造者大賞事務局 (本所 産業振興部内)

TEL 075-212-6450
FAX 075-255-0428

E-mail taisyo@kyo.or.jp
http://www.kyo.or.jp/brand

京都創造者大賞

宇治茶の郷づくり協議会

世界に誇る緑茶ブランド「宇治茶」の振興発展



▲八十八夜茶摘みのつどい



▲キッズ茶ムリエ検定



▲宇治茶カフェガイドブック



▲宇治茶歴史街道ウォーク

講評

山城地域は、14世紀からの長い茶栽培の歴史の中で、16世紀から19世紀にかけて、抹茶・煎茶・玉露を創造することで、「和」を旨とする独自の喫茶文化の展開を支えてきた。その歴史文化を広く伝えるため、協議会では、茶畑景観や茶摘み行事をはじめ、多くの関連文化資産を守るとともに、茶を楽しむ習慣が世代を超えて広まるよう尽力してきた。特に「宇治茶歴史街道」整備、「日本茶800年歴史散歩」の日本遺産認定、そして「お茶の京都博」の開催等は、宇治茶の郷を「和」を願う世界の人々が訪れる美しいステージへ高める創造の歩みであり、今後のさらなる展開を期待したい。

京都創造者賞

京都水族館

京都に住む子どもたちが水と、水に棲むいきものたちと
親しめる総合エデュテインメント型施設



▲イルカショー



▲親子いきもの探検団



▲オットセイの赤ちゃん一般公開

講評

2012年、海に接しない京都内陸に開館。毎年、世代を超えて多くの人が訪れ、瞬く間に人気スポットとなった。基本コンセプト「水と共につながる、いのちの通り、特別天然記念物・オオサンショウウオなどの展示のみならず、つねに川と共にある「山紫水明のまち・京都」の川や水辺の世界を紹介、希少生物の保全活動推進等を通じて、京都文化のいわば基底を守り育てていく役割を担う。来館者は、水源の里山から海に至るまで、多くのいのちが賑わう生態系を学び、楽しんでいる。京都らしく、また、エンターテインメントを提供する施設として、さらに躍進されることを期待したい。

株式会社京都放送報道局 京biz制作チーム

KBS京都 経済情報番組「京bizシリーズ」



▲KBSテレビ「京biz」



▲京都企業の現場を取材し、その魅力を番組でPR

講評

京都の多くの企業が景気回復を実感できずにいた2007年に番組を開始。以来、「真似ず、媚びず」のものづくりや商いで挑戦を続ける京都の中小企業の活動を紹介している。番組での紹介は、取材先の人々の誇りや自信を高めるにとどまらず、業績向上へのはすみともなった。また、企業間コラボレーションの促進、若者の就職先選択肢の増加、国内さらには海外の大メディアの関心の誘引など、その影響は多岐にわたり、まさに媒介者として京都創生を担ってきた。引き続き、地域局ならではの強みを活かして、京都がさらに輝きを増すよう、情報発信していかれることを期待したい。

公益財団法人 世界遺産賀茂御祖神社 境内糺の森保存会

糺の森の保存整備活動や葵祭・式年遷宮・ 流鏝馬など千年の伝統祭事等の保存事業助成



▲国宝 賀茂御祖神社



▲葵祭



▲流鏝馬

講評

「糺の森」に佇むと、山背原野の息吹を感じる。1200余年にわたり、我が国の激動の歴史の舞台となった京都において、この広大な森を守り抜くのは並大抵のことではなかったはずである。先人達の思いを受け継ぎ、「糺の森」をはじめ、歴史的建造物や伝統祭事を維持継承するだけでなく、古きものを守りながら新しい催しを模索される様々な活動は、次代への確かな歩みでもある。大都市にあって太古の原生林の面影を残す、世界に希有の存在として、また、人々が四季折々の美を感じる場として、これからも最新の学術成果を活かしつつ、森の「創造力」が未永く保たれるよう、ますますの活躍を期待したい。